



2027横浜
国際園芸博覧会

横浜市における基本計画の検討状況

第1回目

1. 基本認識
2. テーマ・サブテーマ・事業コンセプト
3. 参加方針
4. 事業運営計画
5. 会場計画
6. コミュニケーション計画
7. 輸送計画
8. レガシー計画
9. 事業費・事業スケジュール

基本認識、サブテーマ、事業コンセプト等を中心に議論

第2回目

1. 基本認識
2. テーマ・サブテーマ・事業コンセプト
3. 参加方針
4. コミュニケーション計画
5. 会場計画
6. 展示・行催事計画
7. 会場運営・管理計画
8. 輸送計画
9. 情報基盤計画
10. 組織・資金計画
11. リスク管理計画
12. レガシー計画

第1回検討会で議論したサブテーマ・事業コンセプト等から具体的な方針を議論

第3回目 (3月)

1. 開催概要
2. 事業方針
- 3. 展示・行催事計画**
- 4. 会場計画**
5. 会場運営・管理計画
- 6. 輸送計画**
7. 情報基盤計画
- 8. コミュニケーション計画**
- 9. 組織・資金計画**
10. リスク管理計画
- 11. レガシー計画**
12. スケジュール

※太字は詳細にご説明する項目

第1回、2回での議論を踏まえ、計画市案取りまとめ

1) 事業構造（参加者の検討～2027横浜国際園芸博覧会の参加モデル～）

- ・参加者規模：1,500万人以上（ICT活用や広域・地域連携などの多様な参加形態を含む）
- ・有料来場者数：1,000万人以上

リアルな体験・空間演出

- ・園芸や農などの体験を通じて、来場者に人と自然の共生や自然環境の大切さに気づかせ、意識や行動の変容に繋げるため、**リアルな体験の場の提供が重要**
- ・**体験や自然環境の体感に適した会場空間（密度）の設定や演出が必要（1日の来場者10万人）**

ICT（情報通信技術）等の活用

- ・テレワークやオンラインセミナーなど、働き方や暮らし方に変化
- ・芸術鑑賞やイベント等においてもバーチャルなど**ICT等を活用した参加スタイルが進展・定着**
- ・**2050年の社会を見据えれば、オンライン参加等を博覧会への新たな参加方式として位置づけるのが妥当**

あらゆる主体の参加・会場外との連携

- ・多様な主体による連携の取組や、ボランティアなど、博覧会に関わる**あらゆる主体が博覧会に参加する仕組み**を創出していく
- ・市内外の庭園、企業や個人の庭を巡るツーリズムや、農業体験など、**会場外の庭園や体験型イベント等との連携**に取り組む

1 全体概略（事業構成）

<テーマ> **幸せを創る明日の風景 -Scenery of The Future for Happiness-**

<サブテーマ>

自然との調和
Co-adaptation

緑や農による共存
Co-existence

新産業の創出
Co-creation

連携による解決
Co-operation

<事業コンセプト>

価値を
再定義する
Revise

多様性に
気付く
Find

行動変容に
繋げる
Change

分かち合う
Share

環境負荷低減を
徹底する
Care

繋がりを広げる
Connect

<会場コンセプト>

里山で培われた思想・行動が未来を広げ、花と緑が輝き、人と自然が共に紡ぐ明日の風景

“The Philosophy of Satoyama” opens up the possibilities. “Flower, Greenery, Nature and Human” create ideal landscapes of the future.

庭園

パビリオン

コンペティション

行催事

営業活動

Village

会場計画 会場運営・管理計画 輸送計画 情報基盤計画
コミュニケーション計画 資金計画 リスク管理計画

レガシー計画

3.4 Villageイメージ図



3.4 Villageにおけるコンテンツの展開

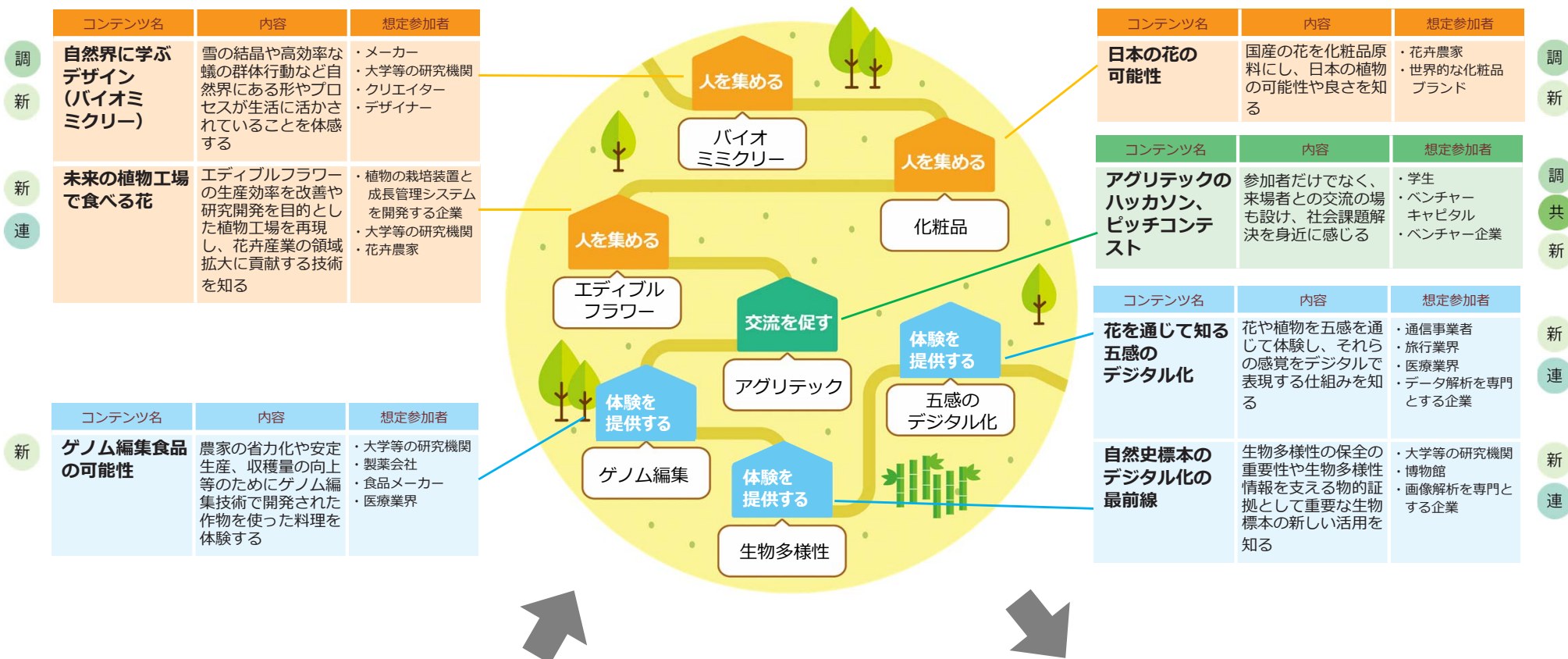
デジタル技術でリアルに彩られる花・緑の多様性

生物多様性が科学技術の進歩に重要であることを発信し、リアルの重要性を再定義するとともに、新産業の創出につなげる

<Village配置の考え方>

斬新な建物中心で、未来的な印象を与えるコンテンツを多く展開し、ワクワク感を演出できるので、最初に来場者の目に付きやすい入場ゲート付近に配置する

汎用： 調 自然との調和 共 緑や農による共存 新 新産業の創出 連 連携による解決



会期前の取り組み

- ・ 国内外の子どもたちに「未来の植物工場」のアイデアを出してもらおう。
- ・ 生物多様性スタンプラリーを企画し、各地の博物館や動物園をめぐり、生物多様性の重要性を知ってもらおう。

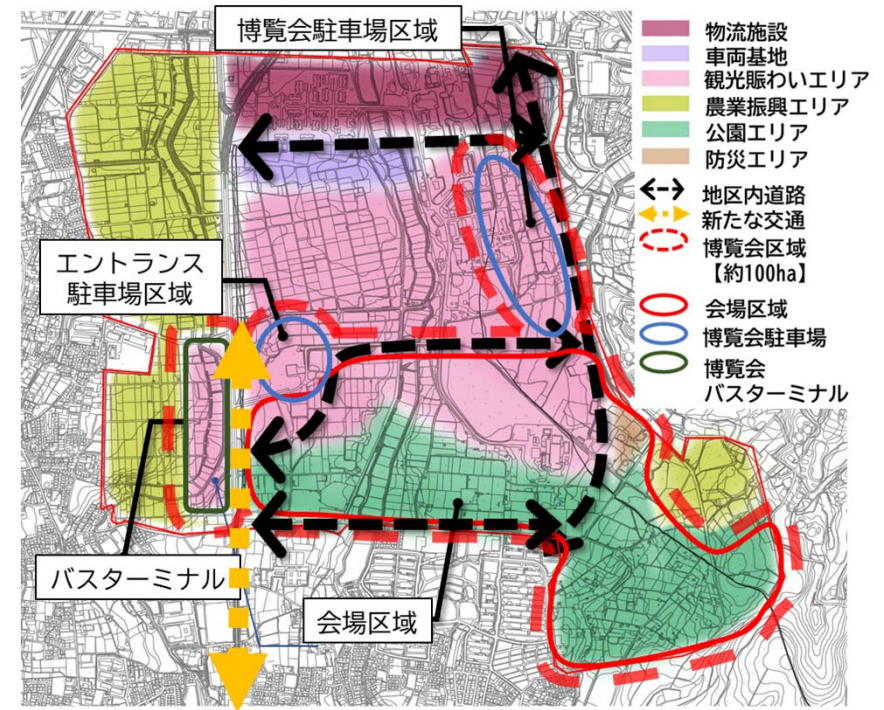
レガシー

- ・ アグリテックのハッカソンやピッチコンテストを年次イベント化し、上瀬谷で開催。国内外から関心の高い人を集め、地域の賑わいや地元農業関係の活気を生み出す。

<第2回具体化検討会の内容>

●自然特性を活かした博覧会区域【100ha】

【会場計画で活かす環境ポテンシャル】



●会場コンセプトの検討

自然と人とは共生してきた里山に蓄積された知恵や人が関わる仕組みについて、本博覧会のコンセプトとして取り入れ、自然と人との関わりが減少しつつある都市の暮らしを変革する、身近な自然とともに暮らす農的生活を幸せに満ちた**未来社会の風景**として提案し、**社会課題解決のための多様な主体による連携を可能とする博覧会会場**とする。

4.2 会場構成

(4) 会場配置 (イメージ案)



2027 国際園芸博覧会の PR 協力者募集！ ～推進ロゴマークを活用した PR を実施します～

2027 年に横浜で開催する「国際園芸博覧会」を、「推進ロゴマーク」を活用して一緒に盛り上げていただく協力者を募集します。

PRしていただいた内容は、ウェブサイトや印刷物等広報媒体でご紹介します。
ぜひ 2027 年の国際園芸博覧会の PR にご協力をお願いします。

【募集概要】

- 1 対象者：推進ロゴマークを活用して国際園芸博覧会の PR に協力していただける企業・団体等（個人は除きます）
- 2 募集開始日：令和3年2月17日（水）
- 3 推進ロゴマークの活用例
 - ・ 名刺やポスターへの掲載
 - ・ 商品パッケージへの使用
 - ・ シンポジウムなどのイベントでの使用 等
- 4 申請方法：記入した所定の申請書と添付書類を「5 申請先」にご提出ください。事業開始日の原則3週間前までに、承認を受ける必要があります。使用申請を行い、承認を受けると、推進ロゴマークの使用が可能となります。推進ロゴマークの使用に関する要領・申請書、ガイドラインは以下のウェブサイトをご覧ください。
<https://www.city.yokohama.lg.jp/city-info/seisaku/torikumi/engeihaku/logopr.html>
- 5 申請先：横浜市都市整備局 国際園芸博覧会推進課
【電子メールでの送付】tb-engei-intl@city.yokohama.jp
【郵送での送付】〒231-0005 横浜市中区本町4丁目43番地 A-PLACE 馬車道4階
- 6 応募者の受けるメリット
 - (1) 推進ロゴマークの無料使用
 - (2) 2027 国際園芸博覧会推進委員会ウェブサイト等広報媒体での紹介

2027 横浜 国際園芸博覧会推進ロゴマーク



国際園芸博覧会の国内外への PR と機運醸成を進め、愛着心や誇りを高めるための推進ロゴマークです。博覧会協会（仮称）による公式ロゴマークが作成されるまでの間、活用していきます。

＜推進ロゴマークに込められた意味＞

2027 年、横浜で開催する国際園芸博覧会に、花・緑・農をはじめとした世界の自然、人、文化が集まる様子を、花をモチーフに表現しています。花卉は、博覧会で生まれる多様な交流と、そこから「幸せな明日」を創造していく生命力を、葉は、自然との共生を象徴し、茎は、開催地横浜の“Y”を表しています。

◆国際園芸博覧会の詳細については、以下のウェブサイトをご覧ください。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/city-info/seisaku/torikumi/engeihaku/top.html>

（裏面あり）

【参考1】国際園芸博覧会について

◆横浜における国際園芸博覧会の概要

開催場所：横浜市 旭区・瀬谷区 旧上瀬谷通信施設

開催期間：2027年3月～2027年9月

会場規模：80～100haを想定

メインテーマ：幸せを創る明日の風景

Scenery of The Future for Happiness

開催意義：Society5.0の推進、グリーンインフラの実装、花き園芸文化の振興等を通じた農業・農村の活性化、観光立国や地方創生の推進を通じ、SDGsの実現による日本モデルの提示を目指します。

経済波及効果：約9,440～9,700億円（令和2年2月28日 国際園芸博覧会検討会報告書より）



◆旧上瀬谷通信施設の概要

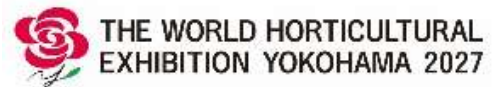
- ・旧上瀬谷通信施設は、2015年6月に返還された米軍施設の跡地です。
- ・面積は約242haであり、首都圏でも貴重な広大な土地です。
- ・東名高速道路や保土ヶ谷バイパスに近接しており、広域で交通利便性が高い地区です。
- ・地区内は横浜市内でも有数のまとまった農地があり、周辺には市民の森があるなど豊かな緑が広がっています。

【参考2】2027国際園芸博覧会推進委員会について

行政機関、経済界、各種団体等の協力により、2027年の横浜における国際園芸博覧会の開催組織（博覧会協会（仮称））の設立準備等を行うとともに、全国的な機運醸成等を図ることを目的とする組織です。

【参考3】推進ロゴマークのパターン

日本語2種、英語2種があります。ガイドラインの通り、文字も含めてご使用ください。その他の詳細は、ガイドラインをご覧ください。



お問合せ先

都市整備局国際園芸博覧会推進課 担当課長 後藤 勝 Tel 045-225-8928

相鉄本線瀬谷駅南口の再開発工事の仮囲いに、地域の小学生とアーティストとの協働作品 『みんなで咲かせる手形アート』で国際園芸博覧会をPR!

2027年の横浜における国際園芸博覧会の開催に向け、開催地を学区に含む旭区と瀬谷区の小学校児童と横浜のアーティストが協働した作品『みんなで咲かせる手形アート』を、相鉄本線瀬谷駅南口の再開発ビル建設工事現場のご協力により仮囲いに掲出しました。

1 設置時期

令和3年3月15日（月）：施行工事
～4月30日（金）（予定）

2 設置場所

相鉄本線瀬谷駅南口第1地区
再開発ビル建設工事仮囲い
相鉄本線瀬谷駅南口から徒歩2分

3 取組内容

- ・市立上川井小学校（旭区）と市立上瀬谷小学校（瀬谷区）の全児童の手形で咲く大輪の花
開催地を学区に含む両校の全学年児童 560人が、横浜市出身のアーティスト大辻 紗羅（おおつじ さら）さんと一緒に、手形を押して大きな花をかたどるアート作品を作りました。
（実施日：2月26日 上川井小学校、3月1日・2日 上瀬谷小学校）



・作品コンセプトは「多様性のパレット Palette of Diversity」（大辻さん談）

国際園芸博覧会のテーマ「幸せを創る明日の風景」をイメージしました。多様な花々や生き物が共存する上瀬谷を描いたイラストレーションに、国際園芸博覧会で世界中から多種多様な花や緑や人が集まり、自然と共生する豊かな未来が開くことを、次代を担う子どもたちの手形で表現しました。子どもたちの手によって咲かせた、色とりどりの8つの花が象徴的な作品です。



2027 国際園芸博覧会 ～世界の花、横浜で咲かせよう～

国際的な園芸文化の普及や花と緑のあふれる暮らし、地域・経済の創造や社会的な課題解決等への貢献を目的に開催します。

メインテーマ：幸せを創る明日の風景

開催期間：2027年3月～9月

開催場所：旧上瀬谷通信施設（旭区・瀬谷区）

◆国際園芸博覧会の詳細については、以下のウェブサイトをご覧ください。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/city-info/seisaku/torikumi/engeihaku/>

<裏面あり>

・『みんなで咲かせる手形アート』の制作に参加した児童たちの感想・コメント

Q：参加した感想を教えてください。

A：「楽しかったです。『みんなで咲かせる手形アート』が未来にきれいに残ったり、歴史とかに残ったりするとすごく嬉しいです。」

(上川井小学校6年生 澤邊 壱侍 (さわべ かずま) さん)

「楽しかったです。みんなで押した手が (いろいろな人たちに) 見られると思うとちょっと緊張した。(手形アート作品が) 飾られたら、家族と一緒に見に行きたいです。」

(上瀬谷小学校5年生 細野 詩羽 (ほその うたは) さん)

Q：国際園芸博覧会の説明を聞いたときの感想を教えてください。

A：「世界中のいろいろなお花とか、見たことがないお花を見るのがすごく楽しみです。」

(上川井小学校2年生 渡辺 桃子 (わたなべ ももこ) さん)

「お花を育てたり、見たりするのが好きなので、国際園芸博覧会に行って、たくさんのお花を見てみたいと思いました。」

(上瀬谷小学校6年生 岩崎 莉美 (いわさき りみ) さん)

Q：みんなで一緒に作品を作ってみてどうでしたか。

A：「今年はコロナウイルスの関係で、去年の卒業生よりもあまり思い出を作れなかったからいい思い出になりました。」(上川井小学校6年生 澤邊 壱侍 (さわべ かずま) さん) 「一人一人の手形で大きなお花を咲かせるところがすごく面白いと思いました。」

(上瀬谷小学校6年生 岩崎 莉美 (いわさき りみ) さん)

・参加小学校からのコメント

上川井小学校 山崎 真紀子 (やまざき まきこ) 校長先生



今年度は、コロナ禍にあって校外での活動や講師を迎えての学習ができませんでした。そのため、アーティストと一緒に活動できるというのは、子どもたちにとってよい学習機会になるのではと思いました。また、自分たちの地域が世界のお客様を迎える博覧会の舞台になることを知って、改めて地域のよさや自然の豊かさを実感し、大切にしていきたいという気持ちが高まるといいと思います。

上瀬谷小学校 大竹 貴子 (おおたけ たかこ) 校長先生



今回の『みんなで咲かせる手形アート』をすることによって「本当に6年後に自分たちの街で国際園芸博覧会というすごいことが行われるのだな。」ということを子どもたちにまず実感してもらいたいと心から思いました。将来、環境に優しいまちづくりや、この上瀬谷がやっていくことに興味を持ってもらい、また自分たちもそこに参加していきたいという意欲を持ってくれるといいと思います。

・監修アーティストプロフィール



大辻 紗羅 (おおつじ さら) さん

横浜市出身。2017年東海大学芸術学研究科造型芸術専攻(大学院)修了。横浜市内のイベントマーケティング会社にてプロモーションの制作を行いながら、アートワークも継続して展開。イラストレーション、動画、写真、立体など様々な表現を用い、見たもの経験したものを伝えることがライフワークのひとつ。

お問合せ先

都市整備局国際園芸博覧会推進課 担当課長 後藤 勝 Tel 045-225-8928